神戸観光シンポジウム「地域が主役！KOBE ツーリズム」
開 催 報 告

神戸商工会議所、神戸夙川学院大学、神戸市、国土交通省神戸運輸監理部の４機関が初めて共同で開催した、神戸の観光振興について様々な立場で取り組む方々のためのシンポジウム。立場や業種を超えて地域の関係者が連携し、地域が主役となって自分たちの地域の観光を推進することを呼び掛けるこのシンポジウムは、神戸市内の企業、市民団体、教育機関などの関係者のみならず、大阪や京都など他地域で同様に観光振興に取り組んでいる方々の関心も集め、総勢１５０名以上が参加する大変盛況なイベントとなりました。

＜開催概要＞　※プログラムの詳細については別添１参照

日　程：平成２３年３月８日（火）
場　所：神戸夙川学院大学
主　催：神戸商工会議所　神戸夙川学院大学　神戸市　国土交通省神戸運輸監理部
後　援：財団法人神戸国際観光コンベンション協会
参加数：本会１５２名、懇親会１０５名（別添２参照）

●神戸観光プラットフォームとは　～「KOBE ツーリズム」ブランドの形成～

シンポジウムの皮切りとなる基調講演では、神戸夙川学院大学で産官学地域連携センター長などを務める小野田金司教授が「神戸観光プラットフォーム」の概念と、それを支えるために大学が目指す地域観光人材育成について説明されました。

過去、高度成長期に急速に発展した旅行形態は、「発地」の旅行会社が主導する大量消費型のマスツーリズムが主流でしたが、近年に至るまでの価値観の多様化やインターネットの普及による流通革命などの時代の変化を経て、近年では旅行先である地域側が小ロットで多様なテーマを持った、内容重視の体験交流メニューを提供する「着地」型観光が脚光を浴びています。この着地型観光において重要な役割を果たすのが観光地域づくりプラットフォームです。

観光地域づくりプラットフォームでは、地域の企業や団体など様々な関係者の連携を前提とし、地域をまとめて旅行市場（旅行者や旅行会社）とつなぎます。神戸では様々な産業や歴史・文化、異国情緒を残す街並み、都市と山・海が織りなす美しい景観など、魅力的な要素が数多く存在しており、また交通至便、人材も多彩で豊富と、「神戸観光プラットフォーム」が成功する大きな可能性を秘めています。特に人材については、神戸夙川学院大学が地域の産業界のニーズに合わせ、神戸の地域づくりなどの取り組みを通じた実践的教育を行う仕組みを試行しているなど、プラットフォームを支える地域観光人材育成の基盤が整いつつあります。

これからの神戸観光プラットフォームの構築と成功のために、地域の関係者がそれぞれ観光地域づくりを意識して取り組むこと、そして関係者が連携して旅行市場に神戸の魅力、「KOBE ツーリズム」ブランドを売り込んでいくことが必要なのです。

●様々な立場から関わる観光　～地域が主役の取り組みはもう始まっている！～

基調講演の後は、神戸で今も様々な立場から観光地域づくりに取り組んでいる関係者の方々をお招きして、それぞれの取り組みについてご紹介いただきました。

「産業と観光」: 神戸港の様々な産業を魅力的な観光資源として活用した【神戸港産業観光ツアー】（YOKOSO みなとまち神戸コンソーシアム）

「商店街と観光」: 神戸の地元商店などの魅力や価値を地元民自身が再発見し、地元民がまちの広報員となってファンの輪を拡げていく【まちのお宝再発見ツアー】（神戸商工会議所小売商業部会）

「アートと観光」: 六甲山の素晴らしい眺望や豊かな自然を生かした屋外型アート展【六甲ミーツ・アート　芸術散歩】（神戸夙川学院大学）

「ドラマと観光」: ２０１２年大河ドラマ「平清盛」を活用したまちの活性化と観光振興【KOBE・清盛プロジェクト】（神戸市）

「行政と観光」: 政府が目指す観光立国の実現に向けた基本方針となる新たな【観光立国推進基本計画】（国土交通省）

他にも須磨の漁業関係者が取り組む漁業体験観光や、神戸を舞台としたチャリティーロックイベント「COMIN'KOBE」や芸術展「神戸ビエンナーレ」などのイベント PR も行われ、すでに観光業に止まらない多くの関係者が、神戸の魅力発掘と PR に取り組んでいる模様が他の関係者に伝えられました。

●魅力的な KOBE ツーリズムに必要なものとは

パネルディスカッションでは、現在様々な立場から神戸の観光振興に取り組んでいる関係者の方々の中から、兵庫ヤクルト販売㈱　阿部氏、㈱ティエラコム　西村氏、早駒運輸㈱　渡辺氏、神戸市観光コンベンション推進室　中西氏の４名をパネリストとしてお招きし、神戸の魅力発掘やプラットフォーム構築のあり方について議論していただきました。

様々な意見が交わされましたが、パネリストの議論の間で共有されているのは、着地側が自らの魅力を発掘し、プラットフォームにおいて魅力的な観光コンテンツとして整

理、他地域に発信していくという取り組みの中で、単発的なイベントを行うだけでなく持続可能な仕組みとすること、そして仕組みづくりにおいて従来的な行政主導方式に頼るのではなく、地域の民間企業や市民が主役となって取り組んでいくことの重要性でした。

そのためにも、これからは神戸の観光関係者から市民まで、皆が神戸を好きになり、他地域の人々にも好きになってもらおうと取り組むことが必要です。またその上で、プロモーションでも観光客への接遇でも、魅力の押し売りではなく「どうすれば観光客に楽しんでもらえるか」というホスピタリティ精神をもってあたっていく・・・こうした心構えも含めた議論が、会場にいる多くの関係者に向けて提起されました。

●参加者の声、そしてこれから

本シンポジウムは４機関が共同で開催した初めての試みでしたが、参加者の皆様からは「一人一人が神戸をよく知り好きになる、意識の向上が大切とわかった」、「神戸観光プラットフォームについてもっと議論を聞きたい」などご感想をいただき、主催側が参加者に関心を持っていただきたかったテーマが、共感をもって受け入れられたという手応えが感じられました。

これからも神戸の観光振興に取り組む活動の輪が広がっていくことは確かで、地域の関係者が一体となって「KOBE ツーリズム」の魅力を発信していくための神戸観光プラットフォームの構築が急がれます。